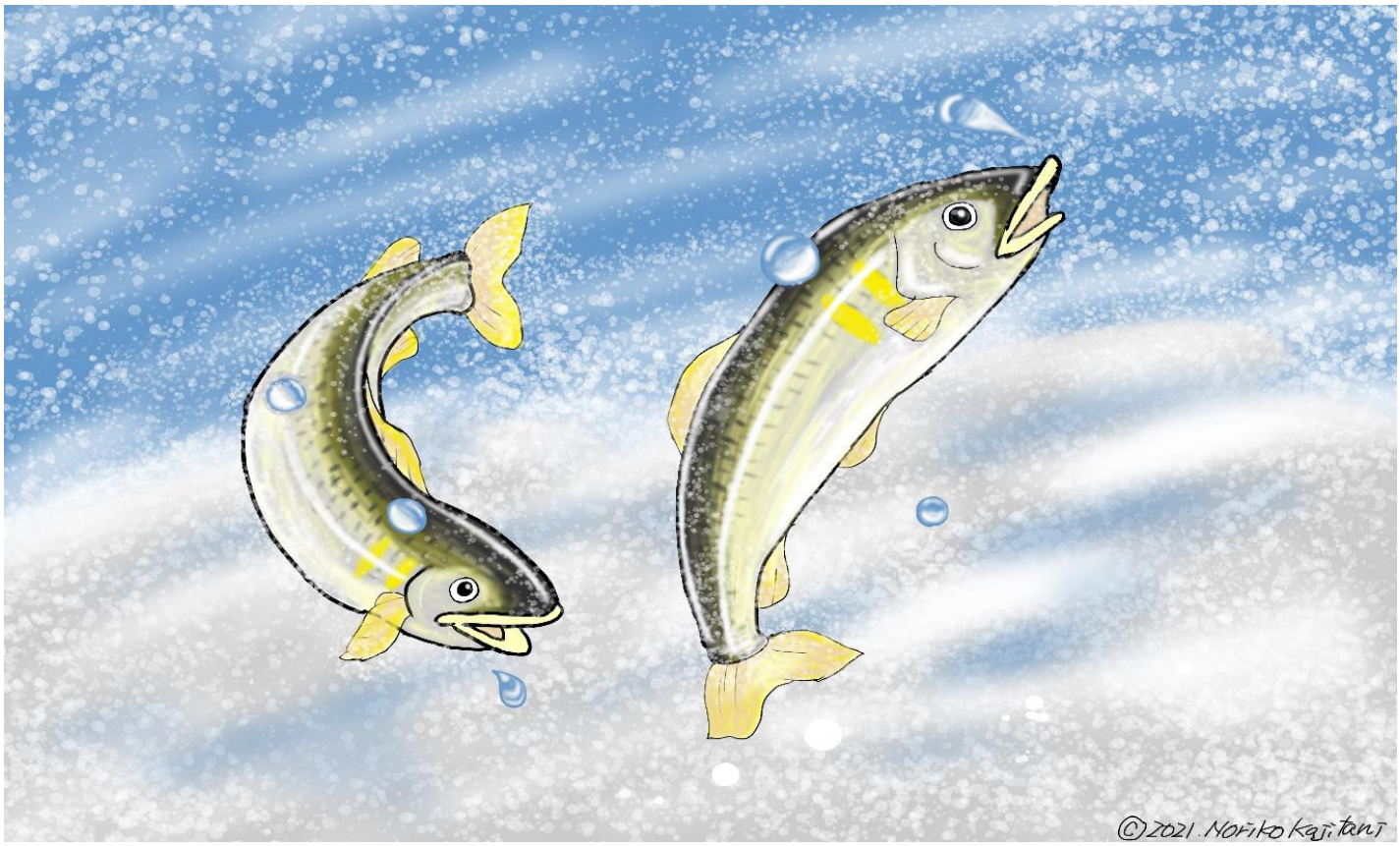
～江府町内の〝あげなこと〟
“こげなこと”をお届けしたい～
・・・そんな思いから始めました♪

鮎おどり
光あふるる号

令和3年7月7日発行
[発行人]　遠藤 敏彦
[編集長]　上野 真
[タイトル] 藤井 聖子
[イラスト] カジタニノリコ
[編集スタッフ]
井上 裕吉、中川 久美子
筒井 真理、末次 多衣子

こうふのたより

＝ チラシブック＜Vol.49＞ ＝



＊本誌掲載の写真、イラスト及び記事の無断転載を禁じます。

＝ 編集後記 ＝「幸せは準備された心に訪れる」

町の魅力は自分たちが見いだし、自分達で磨き創り出すものだと思う。この町で生まれ、暮らし、日々人々の温かさにふれ、奥大山の清流で育ったおいしいお米や野菜をいただき、楽しい仲間と大笑いしながら趣味に興じる。これ以上の幸せがあろうか。

先般、無投票で町議会議員が決まった。各々が決意をもって手を挙げられたと思うが、決して町民が投票して選んだわけではない。いうまでもなく大切なのはこれから先の 4 年間だ。未来を生きる子供達に今大人が何をなすべきか。未だ終息をみないコロナ禍でも、我が町では粛々とワクチン接種を進めていただいている。本当にありがたい。関わっていただいている職員さんは皆すばらしい。他の業務もしかりである。その上に私達の安全安心な日々の暮らしがある。「我こそは」の方々には、魅力あふれる町づくりのために、獅子奮迅の活躍を望みたい。　なかがわ　くみこ

掲載記事等に関するお問い合わせは編集長・上野まで。☎０８０-３０１１-５５０６

山の日の奥大山ライブ

11th August is a Japanese national holiday called Mountain Day

二代目　波留イメージガール

江府町在住のアーティスト。
五百年の伝統を誇る夏祭り「江尾十七夜（えびじゅうしちや）」を題材した時代小説「天の蛍」は数々の話題を呼び、２０１７年にコミック版「天の蛍」が発売され、大好評となる。
ミニアルバム
「五百夜を超えても」
好評発売中！

米子を中心に活動中！エモーショナル３ピース

Gu.Vo.Yuuki
Dr.Kawamoto
Ba.Makoto
三人が心を込めて奏でる無骨な Pop&Rock が心に沁み渡る！

音楽で世界平和を！

鳥取県米子市出身のミュージシャンソングライター・シローの世界を楽しんでください。
<Member>
Vo シロー
Accostic G
スナフキン ヒロセ

西部の風が吹き荒れる

米子から、カウボーイの如きギターをかき鳴らす二人組がやってくる。
様々なカバー曲をやります！

極悪 METAL サウンドを聴け！

（マギーエス）
2000 年頃結成。
山陰随一のハードコアメタルバンドとして精力的にライブ活動を行っていたが、子育てなどなどで一旦休憩。
満を持して
奥大山にて復活！！

MUGGY-S

Emotional ROCK BAND

ドラム、ベース、ピアノの３人でかき鳴らす、３ピースロックバンド。エモい音楽、お届けしますペクション！

SPECTION

BMXperformance

運営スタッフ募集中！

一緒にフェスを盛り上げてくれる方を募集しています！販売補助・機材搬入等の作業です。
記念品としてスタッフＴ贈呈！
申込→江府町観光協会まで
（申し込み締め切り７月 20 日）

with コロナ

屋外イベントで感染対策を徹底していても、感染リスクはあることをご理解ください。
発熱等の症状がある方は来場をお控えください。

2021
8/8 SUN
10:00-17:00
@エバーランド 奥大山
無入料場

奥大山グルメ大集合！

※写真は全てイメージです。アーティストは変更になる場合があります

主催
江府町観光協会
〒689-4401 鳥取県日野郡江府町江尾 2083-2
0859-75-6007
okudaisen.kankou@gmail.com

★同日開催

こうふくらしっく♪主催
星（天の蛍）を見る会
参加無料・申し込み不要♪
日時　19：30～21：00（雨天雲天中止）
場所　エバーランド奥大山

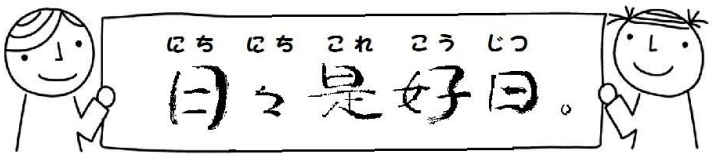
奥大山ガイドクルー 木谷沢散策ツアー

午前の部 10：00～
午後の部 13：00～
1,000 円／お一人様
散策は約１時間。初心者向けのツアーです。
お申し込み　0859-75-6007

魂の解放 爆音茶屋 鯉岩
江府町青年団
道の駅 奥大山 OKUDAISEN
Kofunotayori
DARAZ FM
奥大山のおいしい氷 GREEN STAGE
今井印刷株式会社 PRINTING & COMMUNICATION
小さな今井
奥大山 Ｘスポーツ協議会
one's freak
こうふくらしっく♪
チロル観光

トモのスケッチBOOK

文ひろげ月 / とおい昔から集落を守る小さな社で、
青や紫にひかりかがやく蝶のつがいに出会いました。



◆コラムを書くと言ってはみたものの。その㊹◆

…「国会議員・公務員の皆さん、どこ向いて仕事してますか？　改ざんしてしまいましたが、夫・赤木俊夫はまっすぐ前を向いていました。赤木雅子」。これは、森友学園問題に関する財務省の決裁文書改ざんで２０１８年３月に自死した近畿財務局の元職員赤木俊夫さんの妻雅子さんの著書『私は真実が知りたい』（新聞記者・相沢冬樹さんとの共著）の冒頭にある言葉だ。私がこの本を正味１日で貪り読んだのはちょうど１年前の今頃。俊夫さんが残した手記が公開されたのが少し前の３月で、妻の雅子さんは「夫が何をさせられて、どういう経緯で改ざんすることになって、とにかく真実が知りたいというだけです」と当時の理財局長や国に対し損害賠償を求めて裁判を起こしている。著書には、この提訴に至るまでの雅子さんの葛藤や俊夫さんの手記の内容が細部にわたって書かれている。雅子さんと上司とのやりとり、改ざんはあったと認める発言。そしてつい先日、それまで雅子さんが裁判で重要な証拠として提出を求め続けていた通称『赤木ファイル』がようやく（しかもなぜか突然）開示され、大きく報じられた。ニュースで見た雅子さんの「夫が帰ってきたよう」という言葉が印象的だった。ただ、財務省のトップはこの『赤木ファイル』について「あまり細かく知らないねえ。それしか答えようがないよ今。質問の意味をもう１回俺にわかるように分かりやすく説明してごらん」と答えている。そしてかみ合わないやりとりの最後には「全然頼りねえ顔してるけど、質問するんだったらちゃんと、きちんと知ってないと具合悪いよ」（東京新聞の記者とのやりとり。毎日新聞が報じた）。ちょいちょい、きちっと知ってないと具合悪いのは、大臣、あなたの方だろう。細かく知らないのなら、今からでも知る努力をしてほしい。それが、遺族に対するせめてもの償いではないか。雅子さんは「馬鹿にされたように感じます」と心境を吐露し、それでもなお真相解明の再調査を求め続ける。「何回殺されても私は何回でも助けに行きますから。諦めません」。…国を揺るがす問題であっても、別の問題が出てくれば、大問題であろうと放置され、忘れ去られるようになった。そしてどんな悪事にも「いつまで言ってんの？」という声。悲しいことにその向かう先は悪事を働いた権力者でなく、なぜか追求する側なのだ…。別の本で読み、激しく共感した一節。ならば巨大な権力を持たない私たちはせめて「このまま忘れてもらおう作戦」に惑わされない心を鍛錬しなくては！手記を再読しながら決意を新たにしたこの頃です。

・・・気がつけば「あ、また負けとる」とつぶやくことが常態化してきた今日この頃。打率はトップなのに、得点は最下位。戦績は当然の成り行きといった位置。つい先日、早々とカープの自力優勝は消滅となりました。じゃあ、他力優勝はあるのか？と新聞に向かってツッコんでみたところで、「ないです」とすら返ってくるはずもなく、なのでこれから何を楽しむかと言えば、次々と出てくる若ゴイたちの活躍です。彼らが、グラウンドをはつらつと駆け回る姿は、「また負けた」とつぶやきながらも見る者を爽快な気分にさせてくれます。だからもう、こうなってしまった今だからこそ、実績に左右されることなく、彼らにどんどん実戦経験を積ませてやってほしい…そして、せめて明るい気持ちで野球を楽しませてほしい…そう感じているカープファンはきっと私だけではないでしょう。若者たちの成功体験は、必ずや人を成長させます。今、私もまさに現場でそれを体感しています。叶うものなら同い年の佐々岡監督に「信じて任せたら、あとはジタバタせんこと！」と言ってあげたい気持ちです。【いくたしほ】